

事業に役立つ！事務所通信

融資の最適な借り方

銀行や信金などから融資を受ける際に、明確に「借り方」を意識している社長は意外と少なく、多くの場合、銀行の提案のまま借りていることでしょう。しかし、融資には資金使徒に応じた最適な借り方がありますので、ぜひこの機会に覚えてください。

■ 融資の資金使徒

融資を受ける際、その融資金を何に使うのかという「資金使徒」は極めて重要であり、銀行も審査の際にはその確認と妥当性を見極めて融資をします。

融資の資金使徒は、大きく「設備資金」と「運転資金」に分かれます。この違いはすでにお分かりのことと思います。運転資金は、用途によって細かく分かれ、主な運転資金は次の通りです。

経常運転資金 / 増加運転資金 / 賞与資金
納税資金 / 季節資金 / つなぎ資金 / 赤字補填資金

運転資金の融資というと、借入期間5年や7年などいわゆる長期融資で調達しているケースが多いと思いますが、本来的には、運転資金とは短期融資で調達すべきものです。

過去の日本の金融政策の歴史の中で、また銀行の都合もあって現在では長期融資で借りているケースが多くなっていますが、長期融資で借りるのは設備資金であり、運転資金は短期融資で借りるのが本来の姿であることをこの機会に知っておいてください。

■ 経常運転資金の最適な調達方法

経常運転資金とは、企業が営業活動する上で必ず必要となる資金です。運転資金というと、不足する部分を補うといったイメージがあるので、黒字の会社は必要ないと思う方もいますが、経常運転資金は、黒字、赤字関係なく、多くの会社で発生します。

計算式は【売上債権 + 棚卸在庫 - 買入債務】。

例えば、商品を仕入れてから売までの在庫期間が1ヶ月、さらに、売れてから入金するまでの売掛金の期間が1ヶ月という会社は、商品を仕入れてから売上入金まで合計2ヶ月かかります。一方で、仕入れた商品の代金支払いが1か月という場合、売上金の入金までの期間が2ヶ月に対して仕入の支払いは1か月ですので、入金よりも支払いの方が1ヶ月早く到来します。

このような入金と出金のタイミングの差によって発生する運転資金のことを「経常運転資金（正常運転資金）」と言います。

経常運転資金は、事業活動を行う限り常に発生するので、銀行融資で補う場合は、返済のない借りっ放しの状態にできることがベターです。長期融資で借りて毎月の返済があると不足が発生するからです。したがって、最適な調達方法は「短期継続融資（短コロ）」もしくは、「当座貸越」です。

しかし、現実的には、長期借入金によって調達している会社が多く、毎月の返済により経常運転資金が不足し、ある一定のボリュームを下回った際に、再度長期融資を折り返してもらうという

形で銀行に対応してもらっています。しかし、そうすると、毎月の約定弁済額が多額となり、資金繰りを逼迫させる原因となります。

現在、経常運転資金を長期融資で調達している場合は、メインバンクに短期継続融資もしくは当座貸越へ切り替えを相談することで資金繰りを大幅に改善できる可能性があります。但し、それなりの財務内容が求められること、交渉ポイントがあるので、専門家と共に取り組む方がスムーズに話が進むかもしれません。

なお、増加運転資金とは、経常運転資金が増加した部分のことです。売上規模の変動等によって必要な経常運転資金の量も変動しますので、それに応じて短期継続融資のボリュームも変更してもらいます。

■ 賞与資金、納税資金の最適な調達方法

- ・賞与資金：ボーナスの支払いのために借りる資金。
- ・納税資金：法人税、事業税等を納めるために借りる資金。

賞与資金は、通常、短期融資を分割弁済で借ります。賞与資金を借りることで、夏と冬に突出する支払いをならして平準化し、資金繰りを安定させる効果があります。次のボーナスまでに完済するスケジュールで借りるので6ヶ月程度の期間で借ります。

納税資金についても同じように決算申告の際の納税と中間納税のタイミングに合わせて借りますので、期間3ヶ月や6ヶ月で借ります。次の納付のタイミングまでに分割弁済で返済することで支払いを平準化し、資金繰りを安定させます。

ちなみに、残念ながら納税資金は消費税では使えません。消費税は、預かり金的性格のものだからです。同じ理由で源泉所得税も納税資金として借りることはできません。

■ 季節資金、つなぎ資金の最適な調達方法

- ・季節資金：季節によって需要が発生する資金。
- ・つなぎ資金：入金までの間の資金不足を埋めるための資金

季節資金は、例えば、年末・年始の売り出し等の繁忙期に向けた仕入れ資金などに対応する資金です。3ヶ月や6ヶ月の短期融資で調達し、繁忙期の売上金で返済します。

つなぎ資金は、例えば、建設業が受注から入金までに半年かかるなどの場合に、その間に発生する材料費や外注費等の支払いに充てる資金や、補助金が入金するまでの間の補助事業遂行のために必要となる資金を借りるなどのイメージです。入金が予定されている場合に、その入金までのつなぎとして活用します。この場合は、手形貸付で短期融資を受けることが一般的です。

■ 当座貸越の活用

賞与資金、納税資金、季節資金、つなぎ資金の手当てには、上記の方法の他、当座貸越の契約をしている場合は当座貸越を利用してもOKです。

事業に役立つ！事務所通信

2022年10月10日発行

第5号

たかしま行政書士事務所発行